

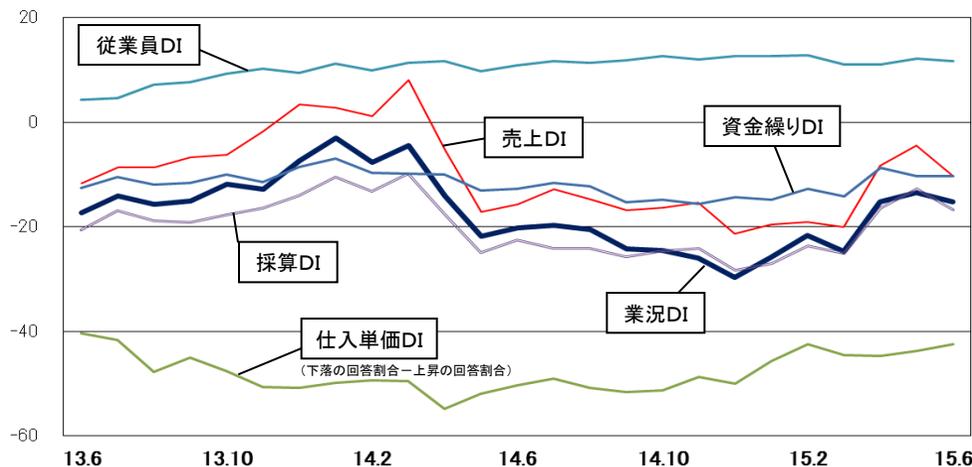


業況DIは、緩やかに持ち直しも、足元で一服。先行きは底堅い動きが続く

ポイント

- ▶ 6月の全産業合計の業況DIは、▲15.3と、前月から▲1.8ポイントの悪化。円安の影響によるコスト増が続く中、取引価格への転嫁が遅れているほか、人手不足や人件費の上昇が中小企業の景況感を押し下げた。他方で、回復のペースにばらつきはあるものの、好調なインバウンドや株高・賃上げを背景に、個人消費は持ち直しに向けた動きが続くほか、設備投資も回復の兆しがみられている。中小企業の景況感は、比較対象となる前年同月に消費税引き上げの影響が残っていたことへ留意が必要であるが、総じてみれば緩やかな回復基調が続いている。
- ▶ 先行きについては、先行き見通しDIが▲14.8(今月比+0.5ポイント)とほぼ横ばいを見込む。賞与増を含む賃上げやプレミアム付商品券をはじめとする政策効果などを背景に、夏以降の個人消費、設備投資の回復を期待する声が聞かれる。他方で、円安に伴う一段のコスト増や価格転嫁の遅れ、労働需給の逼迫による人件費の上昇などへの懸念から、先行きに慎重な見方も伺える。

LOBO全産業合計の各DIの推移(2013年6月以降)

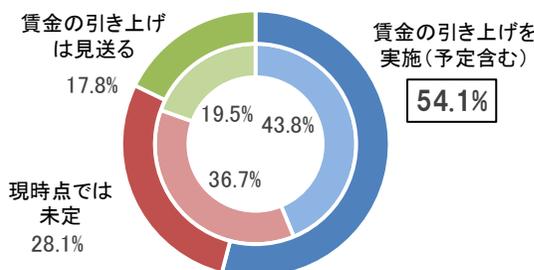


2015年度の所定内賃金の動向

- ▶ 2015年度に賃金の引き上げを実施した企業(予定含む)(全産業)は、54.1%。3月調査の43.8%から10.3%増加し、半数を超えた。「現時点では未定」とする企業は28.1%

◆2015年度の所定内賃金の動向(全産業)

※円グラフの外側が6月調査、内側は3月調査



<業種別の割合>

建設業:57.9% 小売業:44.8%
製造業:58.8% サービス業:51.5%
卸売業:65.5%

<賃金引き上げの内容>

定期昇給:75.7%
ベースアップ:27.8%
手当の新設・増額:12.7%

※賃金を引き上げる予定の企業が対象、複数回答

[中小企業の声]

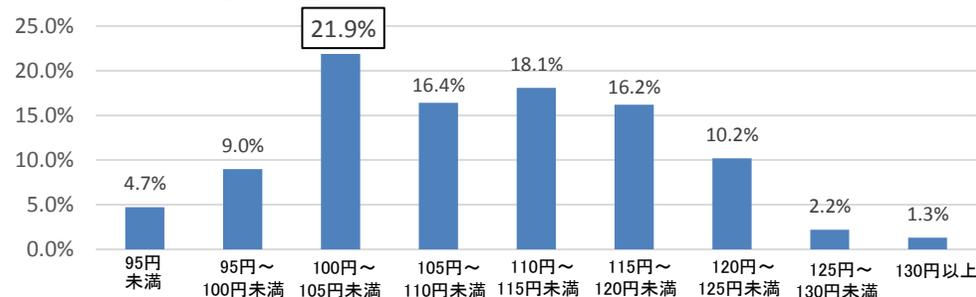
- ▶ 売上増加で業況が好転していることから、社員の士気向上のため、定昇・ベアを実施。他方、法定福利費の負担は重く、合理化・生産性向上を一層進める(本庄自動車部品製造業)
- ▶ 受注が伸びており、自社の業況も良いことからベースアップの実施を決めたものの、上げ幅は、先行きの見通しを踏まえ検討する(加古川酒類卸売業)
- ▶ 経営負担は大きいのが、人材定着を図るため賃上げせざるを得ない(佐世保金属加工業)

経営上望ましい為替水準

※調査期間(6月15日~19日)の為替水準:1ドル=122円~124円台で推移

- ▶ 自社の経営上望ましい為替水準(全産業)は、「100円~105円未満」が21.9%と最も多く、次いで「110円~115円未満」が18.1%と続く

◆経営上望ましい為替水準(全産業)



[中小企業の声]

- ▶ 生産・調達の国内シフトがみられる中、設備や人手の不足から製造元の生産が追い付かず、自社の仕入れにも影響が出ている(八王子婦人服小売業)
- ▶ 円安に伴い、食材等の仕入価格が上昇。販売価格への転嫁が遅れ、採算が悪化する中、いつまで高値が続くかわからず不安(信州中野飲食業)
- ▶ 円安により原材料価格が上昇しているが、販売価格への転嫁交渉が進み、売上・採算ともに好転している(宇部パン製造業)